

(6) 鉄鋼業（鉄素形材製造業を除く）

17/16 18/17 ◎ 伸び率10%以上 ● 伸び率0～▲10%
: 天気図マーク; ◎ ◎ ○ 伸び率0～10% ● 伸び率▲10%以下

1. 企業経営動向

(1) 需要

平成17年度の普通鋼鋼材の受注は、建設向けで対前年度比1.5%減、製造業向けで同比2.9%増、全体計では同比0.1%減の5,498万トンとなった。また、特殊鋼鋼材の受注は、製造業向けが同比7.0%増と増加したことを主因に全体計では同比5.0%増となった。製造業向けのうち、自動車向けが同比10.4%増、産業機械向けが同比3.4%増と堅調に推移。

平成17年度の全鉄鋼輸出は、同比7.3%減の3,207万トンとなった。向け先別にみると中国向けの15.2%減をはじめ、東南アジアでも2年連続で減少、また欧州向けも大幅減になった。

(2) 生産・設備稼働

平成17年度の我が国粗鋼生産量は、高い需要に支えられ、前年度とほぼ同様の1億1,272万トンと、6年連続で1億トンを超える史上5番目の生産水準となった。

平成17年度の普通鋼鋼材生産は、同比4.3%減の7,843万トンとなった。一方、特殊鋼鋼材は同比1.2%増の1,958万トンと、初の1,900万トン乗せとなった昨年度を上回り、平成14年度以降4年連続で過去最高を更新した。

普通鋼鋼材の国内在庫は、平成18年3月末で528万トン（在庫率98.0%）と、前年同月比0.7%増となった。

平成17年度の鉄鋼生産量については、前記のとおり16年度とほぼ横ばいと引き続き堅調に推移したことから、設備稼働率は、高水準で推移した。

(3) 企業収益

高炉5社（連結）決算状況

（単位：億円）

	15年度	16年度	17年度	平成18年度見通し
売上高	81,911	94,095	107,808	110,100
経常利益	5,373	11,815	15,855	13,650

高炉5社の平成17年度決算は、売上高107,808億円、営業利益16,898億円、経常利益15,855億円、当期利益10,003億円となった。

各社の経常利益の水準は、過去最高の水準となった。

国内の数量・価格の改善傾向を反映し、前年度比では営業利益は約3,800億円の増、経常収益では約4,000億円の増となった。

(4) 財務

高炉5社（連結ベース）の有利子負債残高は、平成18年3月末現在で約3兆8千億円となり、前期と比べて約8千億円減となっており、有利子負債の削減に努めている。また、各社とも引き続き有利子負債残高の削減を進める方向。

2. 設備投資動向

(1) これまでの設備投資の推移

鉄鋼業の設備投資額は、平成17年度実績見込で5,409億円（16-17共通回答53社ベース）と平成16年度実績に比べて1,431億円の増加となっている。近年は、旺盛な鋼材需要を背景に各社が積極的に能力増強、更新・維持・補修のための設備投資を行っている。

(2) 平成18年度の設備投資計画

平成18年度設備投資計画額は、7,674億円と平成17年度実績見込5,319億円と比べて2,355億円の増加となっている。（17-18共通回答52社ベース）

18年度も、各社旺盛な鋼材需要を背景に積極姿勢が目立ち、高炉大手5社の合計では減価償却費を上回る設備投資を予定している。

3. 長期資金調達・運用動向

長期資金調達については、ほとんどの企業がバランスシート改善のため、資金の流動性を高め、長期資金から短期資金へシフトさせている傾向にある。

（グラフ1：設備投資の前年比の推移）

（前年度比％）

鉄鋼（平成8年度から鉄素材系を除いている）

